

第3章 流域の社会条件

3-1 人口

雲出川流域は、津市、松阪市及び奈良県御杖村の2市1村で構成されており、沿川市町村人口は約12万人（平成12年）となっている。雲出川下流域では、津方面の通勤圏の拡大とともに人口が増加している反面、上流山間部では、過疎化が進んでいる。

表3-1 雲出川沿川9市町村人口の変遷

単位：人

市町村名	平成2年	平成7年		平成12年		備考	
	人口	人口	増減	人口	増減		
下流域	津市	17,812	19,265	1,453	19,841	576	高茶屋、雲出地区
	旧久居市 (現津市久居地区)	39,682	40,144	462	41,063	919	
	旧香良洲町 (現津市香良洲町)	5,563	5,448	-115	5,300	-148	
	旧三雲町 (現松阪市三雲地区)	953	982	29	990	8	舞出、甚目地区
中上流域	旧嬉野町 (現松阪市嬉野地区)	17,611	17,903	292	17,884	-19	
	旧一志町 (現津市一志町)	13,136	14,257	1,121	14,580	323	
	旧白山町 (現津市白山町)	15,253	14,479	-774	13,395	-1,084	
	旧美杉村 (現津市美杉町)	8,835	8,015	-820	7,158	-857	
	旧美里村 (現津市美里町)	4,521	4,478	-43	4,249	-229	
合計	123,366	124,971	1,605	124,460	-511		

【出典：国勢調査】

注)・奈良県御杖村は、上流山間部の一部のみであるため除外した。
・津市、旧三雲町は、流域関連の町丁・字地区のみ集計した。

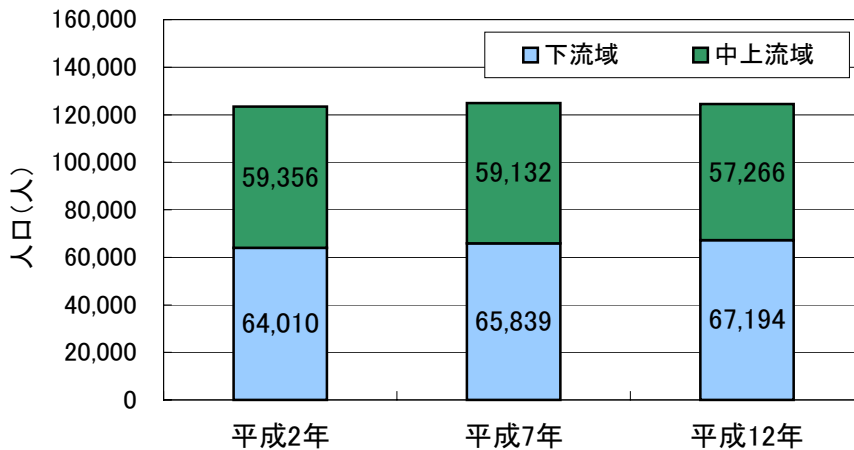


図3-1 沿川市町村人口の変遷

3-2 土地利用

雲出川流域内の土地利用状況は、山林が約 55%、農用地が約 34%、宅地等の市街地が約 11%となっている。

雲出川沿川市町村の土地利用状況を見ると、山林・原野の占める割合がほぼ 6 割程度となっている。経年的には、山林・原野や農用地の面積が減少し、宅地面積が増加傾向にある。

表 3-2 沿川地区の土地利用（私有地）面積の推移
(旧久居市、香良洲町、一志町、白山町、嬉野町、美里村、美杉村の合計)

年 項目	S63		H5		H10		H15	
	面積 (km ²)	比率 (%)	面積 (km ²)	比率 (%)	面積 (km ²)	比率 (%)	面積 (km ²)	比率 (%)
農用地	72	24	69	23	66	22	63	21
宅地	15	5	17	6	18	6	19	6
山林・原野	203	67	197	65	190	64	184	62
その他	15	5	21	7	26	9	29	10
総面積	305		304		300		295	

【出典：三重県統計書】

注)・固定資産税課税に係る評価総地積（私有地面積）
・津市、御杖村、旧三雲町は流域に占める割合が小さいので除外した。

(グラフ内単位: Km²)

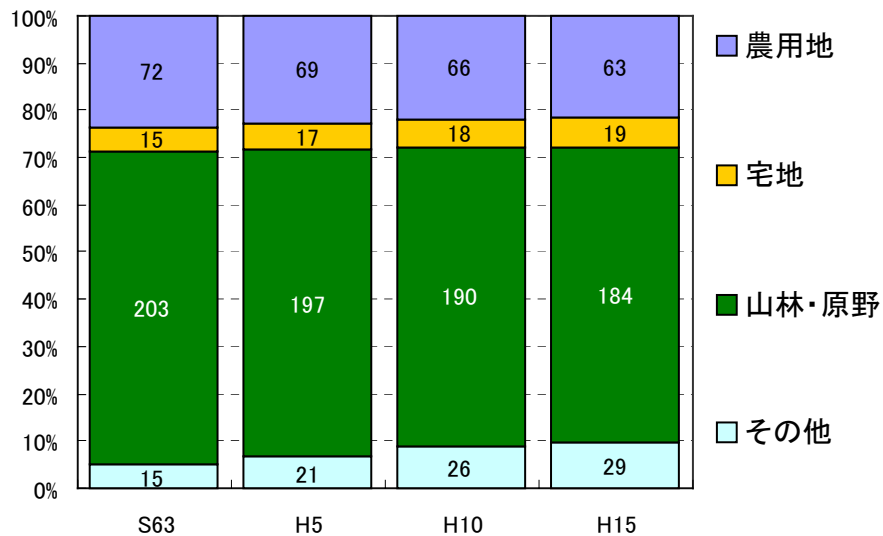


図 3-2 沿川地区の土地利用の変遷

(旧久居市、香良洲町、一志町、白山町、嬉野町、美里村、美杉村の合計)

3-3 産業経済

雲出川流域の平野部では、津市一志町や松阪市一带の稲作（一志米）を中心とする農業、山間部では、津市美杉町、津市白山町に広がる造林地に展開する林業等が盛んである。また、旧久居市の丘陵部や津市香良洲町では梨が生産されており、生産量は県内で旧久居市が最も多く、次いで旧香良洲町となっている。沿川地区の農業粗生産額は約 93 億円（平成 15 年三重県農林水産統計年報）である。

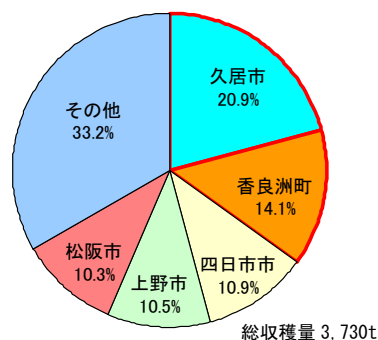


図 3-3 梨の収穫量（平成 15 年）

【出典：三重県統計書「作況調査」】

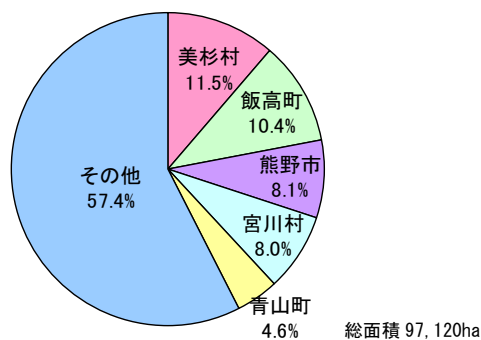


図 3-4 スギ林の面積

【出典：2000 年世界農林業センサス第 1 巻
三重県統計書「森林計画面積」】

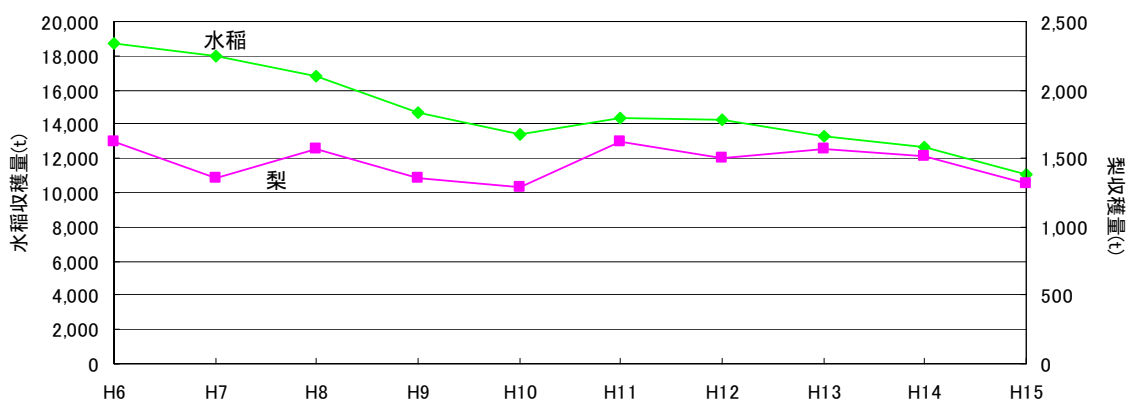


図 3-5 収穫量の推移

【出典：三重県統計書「作況調査」（旧久居市、香良洲町、一志町、白山町、嬉野町、美里村、美杉村の合計）】



梨園

県内では最も収穫量が多く、品種は主に「幸水」「豊水」である。沿川市町（旧久居市、嬉野町、香良洲町）の収穫量は、約 1,500t 前後で安定している。



一志米

【出典：一志町町勢要覧 H7】

雲出川の清流と粘土質の土壌が良質の米を産出し、古くから一志米の産地として稲作が盛んに行なわれている。近年は作付面積の減少に伴い収穫量は減少しており、平成 15 年には約 11,100t（旧久居市、美里村、香良洲町、一志町、白山町、嬉野町、美杉村の合計）。



美杉の林業

【出典：美杉村村勢要覧 H14】

良材として市場で高く評価され、県内外へ広く出荷されている。しかし、木材価格の低迷や需要構造の変化、労働力の高齢化等、安定的、効率的な林業経営が成り立ちにくい状況が続いている。

下流域では、津市久居地区や津市臨海部に工業団地が造成され、臨海部の造船業等の諸工業も盛んである。また、近年は津市一志町の矢頭中宮公園や津市香良洲町の緑のネットワーク整備など各市町村とも自然資源を活かした観光開発も進められている。

産業別の就業者数は、第2次産業の就業者が全国平均と比較して多く、第3次産業の就業者が少なくなっている。

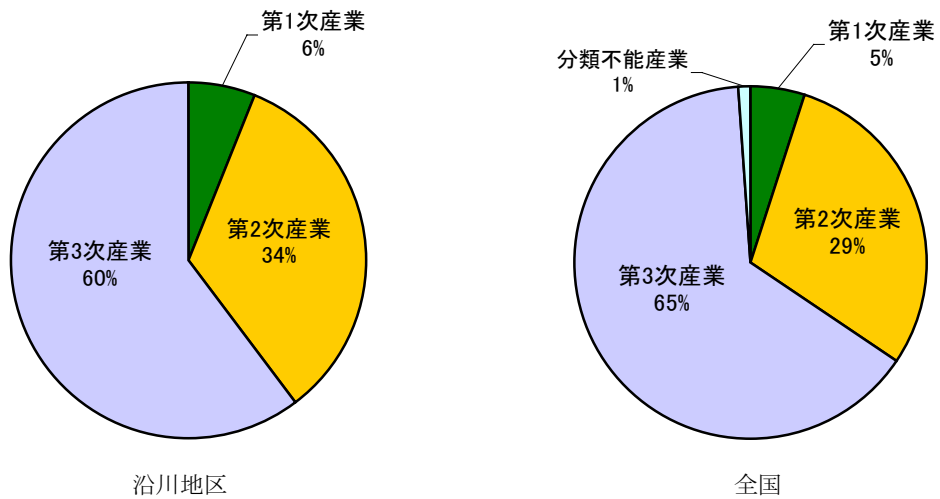


図3-6 沿川地区の産業別就業者の構成比（平成12年国勢調査）

三重県は、クリスタルバレー構想に基づき、今後の成長産業である FPD 産業の企業誘致を進めており、雲出川流域内の津市久居地区においても「ニューファクトリーひさい工業団地」の整備が進められ、既に誘致された企業が FPD 用のガラス加工を行っている。

※クリスタルバレー構想とは「21 世紀の成長産業である液晶をはじめとする FPD（フラット・パネル・ディスプレイ）産業の世界的集積を目指す」ものであり、新しい総合計画「三重県のくにつくり宣言」（平成 9 年）の「第二次実施計画（H14～H16）」で位置づけされているものである。

表 3-3 ニューファクトリーひさい工業団地の現状（平成 15 年 12 月現在）

分譲面積	団地総面積	約 940 千 m ²
	分譲総面積	約 470 千 m ²
	全体面積	約 17 千 m ² ～約 160 千 m ²
	平地面積	約 17 千 m ² ～約 160 千 m ²
企業数	3 社 (FPD 関連企業、他)	
就業者数	140 名	

ニューファクトリーひさい工業団地全景
【出典：三重県】

平成 12 年に第 1 期工事が完成し、平成 13 年 9 月 1 日分譲受付開始、優良企業の誘致に努めている。
6 区画あり、現在 3 区画が売却済みとなっている。



図 3-7 ニューファクトリー
ひさい工業団地位置図

雲出川流域では、三重県の県営事業として土地改良事業が実施されており、流域内で実施された 4 箇所の県営土地改良総合整備事業と 11 箇所の県営ほ場整備事業は、既に完了している。

表 3-4 土地改良事業一覧

		名称	事業年度(完了)			名称	事業年度(完了)
県営土地改良総合整備事業	1	三雲北部	S59～H7	県営ほ場整備事業	a	津南部	S55～H1
	2	嬉野東部	S63～H7		b	そのむら 其村	H7～11
	3	嬉野西部	H5～11		c	一志	S38～45
	4	い 井生	H8～10		d	とよち 豊地	S50～61
					e	中郷	S59～H9
					f	久居	S59～H7
					g	久居二期	S60～H6
					h	榊原	H3～11
					i	白山	S51～S61
					j	白山西部	S57～H2
					k	家城	S63～H8

【出典：三重県農業農村整備 三重県農林水産商工部】

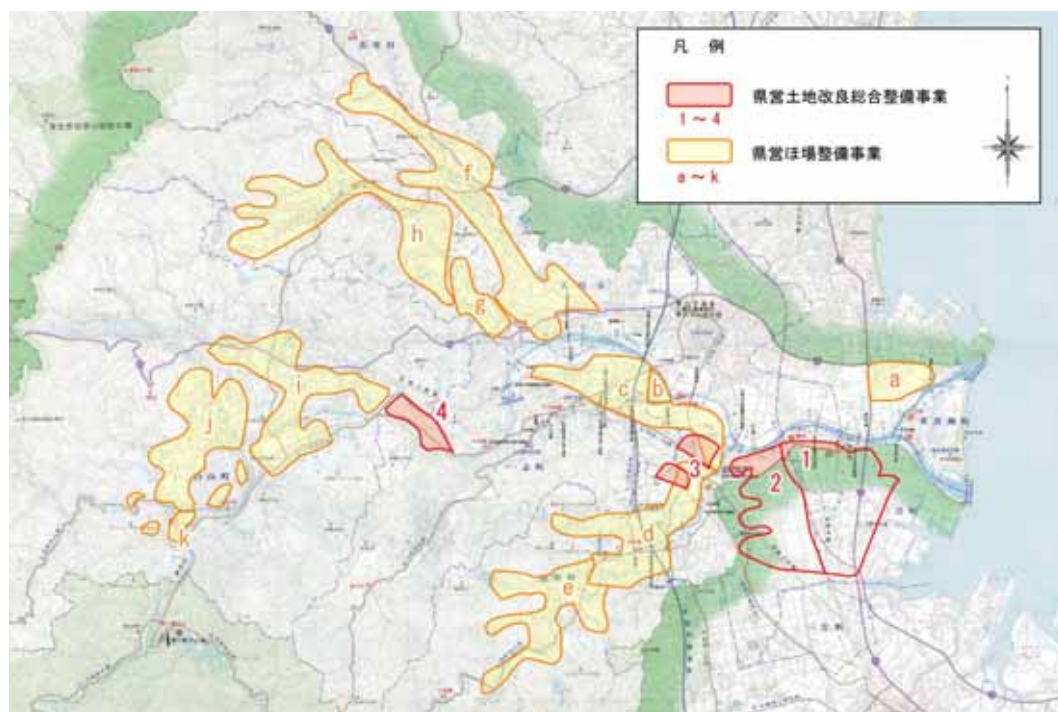


図 3-8 土地改良事業位置図

3-4 交通

雲出川流域は、古来より大和から伊勢を経て、伊勢ないし東国へ至る交通路にあっており、名張から布引山脈を越える街道は古くから伊勢参宮などに利用されていた。

雲出川の水運は、寛仁3年(1019)の皇太神宮遷宮に際し、川上から外院の^{かわかみ}椀皮と樽を出したことが見えており、この頃すでに水運が開けていたものと考えられる。

その後、雲出川の水運・舟運は昭和の初め頃まで続いていた。起点を川口・杉ヶ瀬に置き河口まで、上流からは木材、奥一志の特産物の茶等、下流からは塩、海藻類等の運搬に利用された。そして、伊勢参宮の参拝者にも利用された。その後、水運も時代の流れとともに陸上運送に変わり姿が見られなくなった。

現在、鉄道ではJR名松線と近鉄山田線が走っており、伊勢、名古屋、大阪方面とを結ぶ動脈となっている。

また、伊勢自動車道の開通により、人と物の流れが便利になったため、今後の発展が期待される。



図 3-9 交通網図



図 3-10 江戸時代中期の街道図

【出典：三重史 別編 絵図・地図】